

#### 第47回国際捕鯨委員会（IWC）開会に対する野生生物保全論研究会の意見書

1995.5.31、第47回国際捕鯨委員会（IWC）開会（於ダブリン）にあたり、野生生物保全論研究会（JWCS）では、意見書を IWC 宛てに提出致しました。ここに、その原文及び、実際に提出・配布された英文意見書を記載します。

第47回国際捕鯨委員会（IWC） 御中

1995. 5. 31

野生生物保全論研究会（JWCS）

我々は、南極海のサンクチュアリー設置を基本的に支持する。

現在の地球上における人間の自然環境の退行を防ぐために、できる限り手つかずの自然生態系の保全が必要である。

それ故に科学の名における調査捕鯨は、速やかにやめるべきだと考える。科学的調査は、本来対象の性質に則して行われるべきであり、大型の野生哺乳類の生態や行動、目的とする対象個体群のありかたなどに対する調査では、対象の生命を奪うことはないのが一般的である。

したがって、調査捕鯨継続及び、対象地域の拡大などの要求は、別の目的と見られるのであって、日本のイメージの悪化を招く。その点でも日本人である我々は、捕殺による調査方法の変更を望むものである。

なお、全ての日本人及び、日本の科学者が、現在の捕鯨政策を支持しているわけではないことを表明するため、このアピールを行うこととした。

**Comment :** 野生生物保全論研究会 会長 小原秀雄

南極海をサンクチュアリーにするという国際的動向が1993年頃から始まり、その流れは、環境保全の上では歓迎すべきことであるのは言うまでもありません。

ところが、我が国では、捕鯨業界がこれに反対しています。これに対し、同じ日本人として、野生生物保全と環境保全の立場からの賛意も表わすべきだと考えました。

さらに、調査捕鯨その他について、日本国内では、「科学的」という表現が常に一方的に用いられていますが、全ての日本の科学者が、それらを真に「科学的」とみなしているわけではなく、これを国際的に宣言しておくべきと考えました。